海外神社跡地に見る景観の変容

中 島　三 千 男
NAKAJIMA Michio
（事業推進担当者）

はじめに

本報告は３班全体のテーマ「環境と景観の資料化と体系化」の内，「様々な人間の活動が社会に残した痕跡の解析とそのデータ化」という課題に迫るものであり，とくに人間の諸活動の中でも「主に政治的，政策的な背景をもつもの」という事を，海外神社の跡地を素材にして考えて見ようというものである[(1)]．

この海外神社跡地を素材に，「環境と景観の資料化と体系化」というテーマに迫るという事は，どういう事なのか，率直に言って未だ手探りの状況である．残り３年間の調査・研究を通じてその事を考えて見たいと思っているが，今回はその事を考えるためにも，中間的な試論として，海外神社跡地が今日どのようになっているのか，その景観の変容を取り上げて見たい[(2)]．

Ⅰ　調査の経過

明治維新以降，1945年までの約80年間の間に，日本人の移民や日本国政府等によって，アジア地域に建てられた海外神社は，今日判明しているだけでも凡そ1600余社にのぼる[(3)]．

COEの調査活動では，初年度の活動として，昨年秋に旧樺太（現ロシア連邦南サハリン，以後樺太と表記）地域の調査を行い[(4)]，２年度の今年の夏には旧南洋群島（現北マリアナ諸島連邦，及びパラオ共和国，以下南洋群島と表記）の調査を行ったが[(5)]，筆者はこれ以前にも1990年以降様々な機会をとらえて海外神社の跡地調査を行ってきた．1990年の上海神社の跡地調査を皮切りに，旧中華民国（現中華人民共和国，以下中華民国と表記）では，北京・天津（2000年[(6)]），青島（2003年[(7)]）の調査，旧満州（現中華人民共和国，以下満州と表記）では新京（現長春）・吉林・延吉・圖門・龍井（2002年）の調査[(8)]，旧関東州（現中華人民共和国，以下関東州と表記）では大連・旅順・金州（2004年）の調査[(9)]，旧台湾（以下台湾と表記）では，東部旧花蓮港庁を中心とした，２度にわたる調査（1992年，1996年），旧朝鮮（現大韓民国，以下朝鮮と表記）では釜山・京城（2001年）の調査[(10)]，旧昭南島（現シンガポール，以下昭南島と表記）では1993年の調査等である．

これらを併せると79社に及ぶ神社跡地を探索して来たことになる．海外神社全体の，約1600余社という数から言えば，僅か５％にも満たない数字であるが，一応，戦前に海外神社が建てられた，アジアの主要な地域は全てカバーした事になる．

今，それらの海外神社跡地の現況，景観の変容を地域別に示すと表１のようになる．全体から言え

表１　海外神社跡地現況表

番号	旧支配地名	神社名	鎮座地	社格	創立年	本殿面積	境内面積	現況	残存状況	調査年月
1	台湾	台湾神宮	台北州台北市	官大	1900	31.60	115,600	ホテル(圓山大飯店)		1992.09
2		台湾護国神社	台北市		1940			(台湾)忠烈祠		1992.09
3		高雄神社	高雄州高雄市	県	1912T		7,402	高雄忠烈祠・公園	階段、燈籠など一部改変されて残存	1992.09
4		台南神社	台南州台南市	官中	1920	8.80	7,316	大駐車場建設中		1992.09
5		開山神社	台南州台南市	県	1896		1,006	明延平郡王祠として復活		1992.09
6		桃園神社	新竹州桃園街	無	1938	5.50	55,800	桃園忠烈祠	木造の社殿部分を含めてほぼ完全な形で残存	1996.08
7		花蓮港神社	花蓮港庁花港街	県	1916		19,577	花蓮港忠烈祠	石段など構造はほぼそのまま	1992.09
8		吉野神社	吉野庄	無	1912			旧郡長宅・兵舎	境内の区画はそのまま	1992.09
9		豊田神社	壽庄豊田村	無	1915	6.00		碧蓮寺	鳥居１基、燈籠４基、狛犬２体	1992.09
10		林田神社	鳳林庄林田村	無	1915	3.50	6,008	雑木林(檳榔他)	燈籠基壇又は狛犬台石、石造小太鼓橋、石柱	1992.09
11		佐久間神社	蕃地タビト社	無	1923		6,220	文天祥の銅像・記念碑	石段など構造はほぼそのまま	1992.09
12		玉里社	玉里街玉里	社	1928T			社殿部分は檳榔畑	石段など構造はほぼそのまま。鳥居２基、燈籠17基	1992.09
13		高砂社	平野帰化	社	1931T			住宅密集地	不明	1996.08
14		瑞穂祠	瑞穂庄瑞穂村	社	1931T			畑(蜜柑、分旦)	石段の一部、燈籠の笠の部分(？)	1992.09
15		観音山社	玉里街観音山	社	1931T			小祠(福徳祠)	本殿跡のコンクリート石組みあり	1992.09
16		織羅社	玉里街織羅	社	1931T			廟建設中		1992.09
17		抜子社	瑞穂庄抜子	社	1933T			個人の墓地	階段、燈籠４基、鳥居の柱跡４つ	1992.09
18		壽社	壽庄壽	社	1933T			公園(中山公園)	石段など構造はそのまま	1992.09
19		タガハン祠	蕃地タガハン社	社	1935T			雑草	鳥居柱穴２、燈籠３基(２基は基壇のみ)、太鼓橋、階段	1996.08
20		太平祠	玉里郡タビラ社	社	1935T			雑木林	一部階段跡	1992.09
21		銅門祠	蕃地ムクムゲ社	社	1936T			山崩れ跡(砂防堤)	忠魂碑	1992.09
22		大港口祠	新社庄大港口	社	1937T			雑草	鳥居１基、燈籠６基、手水鉢(？)	1992.09
23		新城社	研海庄新城	社	1937T			キリスト教会(天主教会)	鳥居２基、燈籠８基、狛犬４体、本殿跡にマリア像が立つ	1992.09
24		太巴塱祠	鳳林郡太巴塱	社	1937T			廟(協天宮)		1992.09
25		カウワン祠	カウワン社	社	1938T			雑草	鳥居１基、石段など	1992.09
26		馬太鞍遙拝所	鳳林郡馬太鞍	遙				キリスト教会(光復教会)	なし(参道部分だけそのまま)	1996.08
27		チヤカン遙拝所	蕃地平林社	遙				雑草	石段跡、本殿の基壇石組み	1992.09
28	樺太	樺太神社	豊栄支庁豊原市豊原町	官大	1910	13.28	21,716	個人会社事務所・公園	宝物殿(コンクリート)、燈籠基壇2、倒壊した燈籠	2003.10
29		樺太護国神社	大字南豊原		1935		6,000	市立病院	階段、社殿基壇、燈籠基壇(？)、燈籠の笠	2003.10
30		豊原神社	大字豊原	県	1910	5.41	5,118	検死所	鳥居台石、燈籠基壇(？)	2003.10
31		北辰神社	大字北豊原	無	1924	1.50	1,226	駐車場,団地		2003.10
32		大山祇神社	豊原郡川上村	無	1921	3.00	980	畑地	鳥居の片足、鳥居の他の部分の残骸	2003.10
33		泊居神社	泊居支庁泊居町大字泊居	無	1921	9.00	2,921	雑草	社殿基壇、鳥居２基、忠魂碑、戦勝記念碑、燈籠基壇２対	2003.10
34		追手神社	泊居町大字追手	無	1931	2.15	1,000	雑草	燈籠基壇(？)	2003.10
35		真岡神社	真岡支庁真岡町大字真岡	県	1910	23.75	2,559	サハリン郵船会社	階段、下部石積擁壁、燈籠基壇、手水鉢	2003.10
36		蘭泊神社	真岡郡蘭泊村	無	1922	1.50	1,000	雑草	鳥居台石2、狛犬台座(？)	2003.10
37		野田神社	野田郡野田町	無	1923	2.15	1,440	雑草	大燈籠基壇２	2003.10
38		稲荷神社	野田郡野田町					牧草地	燈籠基壇(？) 2	2003.10
39		亜庭神社	大泊支庁大泊町大字大泊	県	1914	3.19	3,000	船舶カレッジ	階段、手水鉢、鳥居台石(？)	2003.10
40	南洋群島	八幡神社	サイパン支庁サイパン島東村	無	1924	3.00	1,500	彩帆八幡神社として再建	鳥居、手水鉢、階段、社号標、燈籠２基	2004.08
41		南興神社	サイパン島チャランカ	無	1937		1,053	キリスト教会墓地	鳥居、本殿基壇、燈籠２対	2004.08
42		南陽神社	サイパン島南村アスリート	無	1936		1,860	公園		2004.08
43		彩帆神社	サイパン島ガラパン町	無	1914		6,427	彩帆香取神社として再建	社号標、本殿基壇、階段、燈籠	2004.08
44		カラベラ神社	サイパン島北村カラベラ	無	1919		6,000	密林	社殿基壇2、階段2、燈籠基壇５対、太鼓橋、手水鉢、鳥居台石	2004.08
45		泉神社	サイパン島					密林	鳥居、燈籠基壇２、石段、本殿基壇	2004.08
46		(南洋コーヒー)	サイパン島					密林	燈籠、燈籠基壇、鳥居(倒壊)、階段	2004.08
47		天仁安神社	テニアン島ソンソン市街	無	1934	9.00	6,219	学校敷地	鳥居柱の一部(？)	2004.08
48		住吉神社	テニアン島ソンソン	無	1939		1,500	天仁央神社として再建	鳥居、燈籠１対、本殿基壇、玉垣、手水鉢、狛犬１対、階段	2004.08
49		和泉神社	テニアン島マルポ市街	無	1939		3,325	キリスト教祠	本殿基壇、玉垣	2004.08
50		橘神社	テニアン島カーヒー	無	1939		1,816	社殿部分密林	本殿基壇、玉垣、燈籠基壇１対、鳥居(倒壊)、手水鉢	2004.08
51		日之出神社	テニアン島アンガー	無	1939		2,166	公園	鳥居(片足)、燈籠４基、基壇、鳥居柱(１本横転)	2004.08
52		NKK 神社	テニアン島					草地	鳥居２基、燈籠３対、本殿基壇、玉垣	2004.08
53		羅宗神社	テニアン島チューロ	無	1939		3,624	草地	社号標、階段、本殿基壇、玉垣、燈籠基壇１対、大灯籠基壇１対	2004.08
54		南光神社	ロタ島ルギー	無	1939		3,897	密林		2004.08
55		ロタ神社	ロタ島ソンソン	無	1939		4,500	キリスト教祠	階段、本殿基壇、拝殿基壇	2004.08
56		大山祇神社	ロタ島サバナマニラ高地	無			700	記念碑	本殿基壇	2004.08
57		南洋神社	パラオ支庁パラオ島コロル町アルミス高地	官大	1940		96,248	個人宅・再建	階段２、社殿基壇、燈籠３対、手水舎、社号標、太鼓橋等	2004.08
58		ガラスマオ神社	バベルダオブ島ガラスマオ村					草地	基壇２、手水鉢(？)、鳥居台石２、階段	2004.08
59		ペリリュウ神社	ペリリュウ島	無			518	場所を移して再建	(旧社殿、鳥居)	2004.08
60	満州	建国忠霊廟	新京特別市		1940				本殿、拝殿部分そのまま現存、燈籠２基	2002.08
61		新京神社	新京特別市敷島区	神	1915	18.25	6,156	幼稚園	鳥居、社殿の一部	2002.08
62		吉林神社	吉林省吉林市	神	1934		6,403	公園		2002.08
63		間島神社	間島省龍井街		1925		25,268	学校敷地		2002.08
64		延吉神社	延吉街西公園	神	1935		5,863	公園		2002.08
65		圖門神社	圖門	神	1933		3,359	公園		2002.08
66	関東州	関東神宮	関東州旅順市	官大	1938			海軍施設		2004.03
67		大連神社	大連市南山	神	1909	7.00		学校敷地	石段の一部	2004.03
68		沙河口神社	大連市霞町	神	1914	16.85		病院	鳥居台石(？)	2004.03
69		柳樹屯稲荷神社	大連湾會王家屯	神	1919	4.78		個人宅		2004.03
70		小野田神社	大連市泡崖屯	神	1922	0.69		学校敷地		2004.03
71		金州神社	金州會新金州	神	1934	7.50		荒地		2004.03
72	中華民国	北京神社	北京特別市布貢院		1940		6,000	社会科学院		2000.09
73		天津神社	天津市福島街		1915		1,066	八・一礼堂		2000.09
74		青島神社	青島遠寧路		1919		6,412	電子台・公園	階段、鳥居台石2、玉垣の一部	2003.03
75		台東鎮神社	青島台東一路		1915		2,637	商店街		2003.03
76		上海神社	上海江湾路		1933		1,089	陸軍施設		1990.11
77	朝鮮	朝鮮神宮	京城府南山	官大	1919	17.00	100,000	植物園（温室)、公園		2001.09
78		龍頭山神社	釜山府弁天町	国小	1917	12.20	2,157	公園		2001.09
79	昭南島	昭南神社			1943			ゴルフ場、密林	太鼓橋支柱、手水鉢、本殿基壇、社殿基壇	1993.08

1 「神社名」、「鎮座地」、「社格」、「創立年」、「本殿面積」、「境内面積」は、佐藤弘毅編「戦前の海外神社一覧」(薗田稔・橋本正宣編『神道史大辞典』2004年７月、吉川弘文館）によった。

2 「社格」の中で「官大」とは官幣大社、「国小」とは国幣小社、「県」とは県社、「無」とは無格社をそれぞれ指す。また社格ではないが、「神」は神饌幣帛指定神社、さらに「社」とは、台湾において簡便な神社として建てられたもの、「遙」とは遙拝所を指す。また「創立年」で「T」とあるのは「鎮座年」を表す。

3 但し、番号37、44、45、51、57、59、78の７つの神社は上記、佐藤の一覧には載っていないものである。

4 番号45の神社の正式名称は不明。倒壊した鳥居の柱に「南洋コーヒー株式会社」と刻まれているので、仮に（南洋コーヒー神社）と表記する。

ば僅かに５％に過ぎず，また地域的にも偏りがある．ここからいろんな分析をするには極めて慎重であらねばならないわけであるが，研究の今後の見通しを立てる意味において，中間報告としてこの表をもとに，神社跡地の景観変容の紹介と，そこから引き出す事のできるいくつかの分析を行っていきたい．

Ⅱ　海外神社跡地，神社の遺構・遺物の残存状況

1945年の日本の敗戦，植民地支配の崩壊から今日まで，60年の年月が過ぎ去ろうとしている．

筆者が調査を始めた1990年段階でもすでに40数年の年月が流れていた．それまで，一般に，海外神社は敗戦時，日本の植民地支配の精神的シンボルとして，現地人の放火・略奪・破壊の対象になったと言われていたので，実際に跡地調査を始める前までは，その痕跡さえ残っていないのではと思っていた[11]．しかしながら，この十数年の調査で，まず感じさせられたことは，意外に神社跡地の痕跡がはっきりと，しかも多く残っているという事であった．

表１でも明らかなように，今日その跡地がどのように利用されているのか，いないのかにかかわらず，その痕跡を全く留めないのは，25社，約32％に過ぎない．この中にはその神社跡地の付近に行きながらも，最終的にその場所を確定できなかったり，また確定しても十分な調査が出来なかったものも含まれているので，実際にはもっと少ない数字になってくると考えている．

石やコンクリートで造られた，鳥居や燈籠，或いは手水鉢，また，境内に建てられた様々な記念碑，さらには階段や基壇部分といったものが数多く残されている．例えば，写真（1），（2）は樺太の西海岸，旧泊居支庁の泊居に建てられた，泊居神社（1921年創立[12]）の跡地である．泊居の街から一望でき，また，泊居の街や日本海を見渡す事の出来る，絶好のロケーションに建てられた神社であるが，今日，２基の鳥居が立っており，手前の鳥居の右側には戦勝記念碑が半分土台の土砂を流されながらもかろうじて立っている．また，社殿の基壇部分や社殿の右側には忠魂碑も残っているし，さらに燈籠の基壇も４つ（２対）残っている．戦前の神社境内の構築物が，全て揃って残っている例である[13]．

また，台湾の東部，旧花蓮港庁下玉里郡の玉里社（1928年鎮座）もよく残っている．玉里の街を見下ろす山裾の小高い丘に建てられた神社である．写真（3）は旧玉里社の第２階段を上りきった，第２ステップに立つ，二の鳥居と燈籠であるが，図（1）に見られる如く，全部で，鳥居が２基，それに燈籠17基（内完全なものは９基）がずらりと並んで立っており，それは見事な景観であった．写真（4）に見られる如く，一の鳥居の片足（柱）が民家の玄関の柱として利用されているのも面白い[14]．

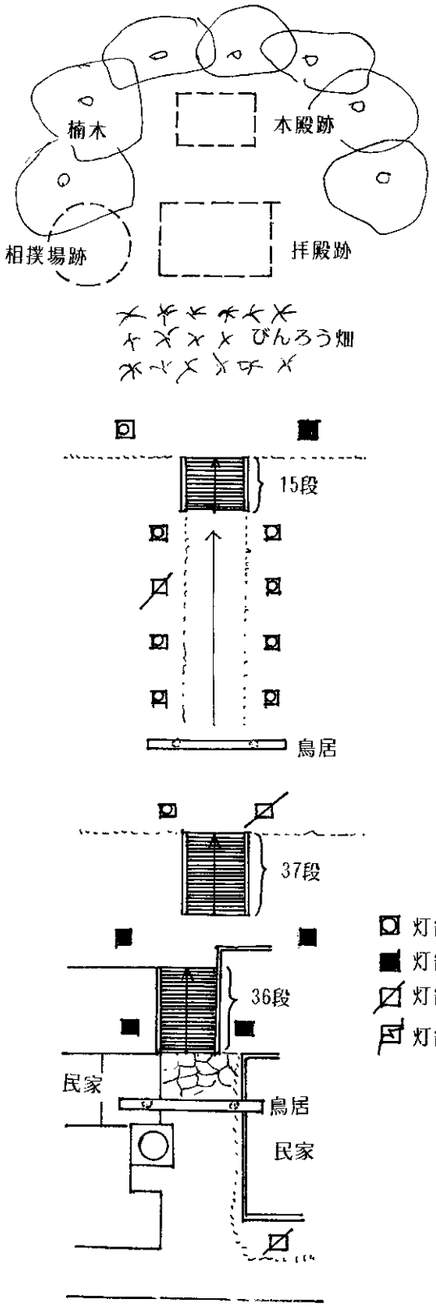
この泊居神社跡や玉里社跡のように，神社の石造構築物がほとんど揃って残っているものは，勿論少ないわけであるが，表１の如く，多くの神社跡には階段や燈籠や鳥居や手水鉢，或いは階段等が単体であるいはいくつかの組合わせで残っており，神社跡地であることが容易に確定できる．

また，石造構築物だけではなく，木造を含む当時の建築物が残っている神社跡地もある．一つは，台湾の北部，旧新竹州桃園郡の桃園（現桃園国際空港のある所）に建てられた桃園神社跡地である．この神社は現在桃園縣の忠烈祠に改変されているが（写真５），燈籠や鳥居，階段，手水鉢など石造構築物が残っているだけでなく，本殿・拝殿（写真６），社務所，中門，祝詞舎，手水舎（写真７）などの当時の建築物がほぼそのまま残っている．ここでは，本殿の中の神々が入れ替わっているだけで

写真１　樺太　旧泊居支庁下，泊居町に建てられた泊居神社跡
手前，一の鳥居の右手に，戦勝記念碑が見える．

写真２　同前
社殿側から海を見晴らす．手前右手に社殿の基壇，左側に忠魂碑も見える．

写真３　台湾　旧花蓮港庁下，玉里街に建てられた，玉里社跡
二の鳥居と燈籠．



図(1)　台湾旧玉里社跡現況図（おおよその配置を示したもの）
（拙稿「台湾の神社跡を訪ねて」,『歴史と民俗』10号，1993年8月，91頁）

写真4　同前
一の鳥居の片足（柱）は民家の柱のような形になっている．

写真5　台湾旧新竹州下，桃園街に建てられた桃園神社跡
現在桃園縣忠烈祠に改変されているが，一部改変されながらも多くの旧神社施設が残っている．

写真6　同前
木造の本殿，拝殿がそのまま残る．

写真7　同前
手水舎と手水鉢

あり，これだけ旧神社の面影をほぼそのまま残しているのは，これまでの調査の限りではここだけである．後で見るように，台湾の主要な神社は多く忠烈祠に改変されるわけであるが，今日，それらの建築物は多く多彩式の中国風の社殿に建て替えられている．ただ，この桃園縣忠烈祠だけは，日本時代の神社の社殿をそのまま利用していることもあって，他の忠烈祠にはない独特の雰囲気を醸しだしている．

筆者が調査に訪れた日，ちょうど若いカップルが写真屋とともに，この忠烈祠を背景に結婚の記念写真を撮りに来ていた（写真8）．また，写真（9）は1987年に日本の神職が訪れ，正装して参拝している様子である（大場俊賢氏提供）．

この他に，当時の建築物が残っているのは，満州の新京（現長春）に建てられた，建国忠霊廟である（写真10，11）．建国忠霊廟は1940年，建国神廟とともに建てられた．天照大神を祀る建国神廟が日本の伊勢神宮をなぞらえたものとすれば，建国忠霊廟は靖国神社をなぞらえて造られたものである．[15] 今日，拝殿，本殿部分がそのまま残っており，旧参道の燈籠も一部崩れながらも残っている．中に入る事は出来ず，今日どのように利用されているのか不明であったが，同行していただいた長春師範大学の方の説明によると，現在，歴史的文物として保存される計画があるとのことであった．

また，同じく新京の新京神社（1915年創立）跡地も，現在幼稚園として利用されているが，鳥居が門として利用されており（写真12），中には入れなかったので確認は出来ていないが，社殿もいくつか残っていて，園舎として利用されているとの事である．[16]（写真13）

以上，海外神社の跡地に石造建造物や木造を含む当時の建築物が意外に多く残っていることを見て来たわけだが，この他にも神社境内にあった遺物が，跡地ではなく，場所を移動して残されている場合もある．サハリンの郷土史博物館の玄関前の両側に飾られている狛犬（獅子）像は，これはかって樺太護国神社（後述）に奉安されていたものである．また台北の台湾省立博物館の前庭に置かれている水牛像は，これは台湾護国神社の境内にあったものを移したものであるという．このように，重量がありまた美術品としての価値のあるものは，公的施設に移されて公開されているが，簡単に移動できるものは，戦後の混乱期に，またその後の長い年月の間に，社殿跡から移動され，その後不明となったものも多いようである．南洋群島のペリリュウ神社跡地を訪れた時には，旧社殿跡にあった1基の燈籠を自分の家に持ち帰ったという話を現地人に聞いたし，また台湾の抜子社の木の鳥居は橋の部材として利用されたという話も聞いた．さらには台湾の台南嘉義に建てられた，関子嶺神社の石造社号標が階段の踏み石として，また，同神社の賽銭箱が学校のごみ箱として，利用されたという話も聞いた．[17]

Ⅲ　海外神社跡地の景観変容

さて，いよいよ本題に入ろう．表2はこれまで現地を訪れた79社の海外神社跡地が今日どのような状況になっているのか，どのように景観を変容させているかという事を，現況・景観別にまとめたものである．

海外神社跡地の現況・景観の変容は大きく4つに分ける事が出来る．1つは，そのまま未利用のまま放置され草地や荒地の中に神社の遺構が残されていたり，また，雑木林や密林（ジャングル）の中

写真8　同前
旧神社時代の石段上で，結婚の記念写真を撮る台湾人のカップル．

写真9　同前
旧本殿前で拝礼する日本の神職たち（1987年，大場俊賢氏提供）

写真11　同前
拝殿を隙間から撮る．

写真10　満州　旧新京（長春）に建てられた建国忠霊廟跡
現存する旧本殿，拝殿部分を裏側から見る．

写真 12　満州　旧新京（長春）に建てられた新京神社跡
鳥居が幼稚園のゲートになっている．

写真 13　同前
社殿部分も幼稚園の教室として利用されているとのこと．

表 2　現況別旧海外神社一覧

	現況	旧神社名
改変	公園	高雄神社・壽社・新城社（台）樺太神社（樺）朝鮮神宮・龍頭山神社（朝）青島神社（中）南陽神社・日の出神社（南）吉林神社・延吉神社・圖門神社（満）
	宗教施設	新城社・馬太鞍遙拝所（台・教会）、和泉神社・ロタ神社（南・キリスト教祠）、豊田神社（台・寺院）、観音山社・太巴塱祠・織羅社（台・廟・小祠）
	墓地	抜子社（台）、南興神社（南・教会）
	忠烈祠	台湾護国神社・高雄神社・花蓮港神社・桃園神社（台）
	記念碑等	佐久間神社・壽社（台）、大山祇神社（南）、朝鮮神宮・龍頭山神社（朝）
	幼稚園・学校等	大連神社・小野田神社（関）、亜庭神社（樺）、新京神社・間島神社（満）、天仁安神社（南）
	病院	樺太護国神社（樺）、沙河口神社（関）
	軍施設	吉野神社（台）、関東神宮（関）、天津神社・上海神社（中）
	その他	台湾神宮（台・ホテル）、高砂社（台・住宅地）、樺太神社（樺・会社事務所）、豊原神社（樺・検死所）、真岡神社（樺・会社）、北辰神社（樺・駐車場）、柳樹屯稲荷神社（関・個人宅）、朝鮮神宮（朝・植物園〈温室〉）、南洋神社（南・個人宅）、ペリリュウ神社（南・採石場）、青島神社（中・電子台）、北京神社（中・社会科学院）、台東鎮神社（中・商店街）、昭南神社（昭・ゴルフ場）
	畑地・牧草地	瑞穂祠・玉里社（台）、大山祇神社・稲荷神社（樺）
放置	草地・荒地・雑木林・密林	林田神社・太平祠・銅門祠・大港口祠・カウワン祠・タガハン祠・チヤカン遙拝所（台）、泊居神社・追手神社・蘭泊神社・野田神社（樺）、金州神社（関）、カラベラ神社・泉神社・（南洋コーヒー神社）・橘神社・ NKK 神社・羅宗神社・南光神社・ガラスマオ神社（南）、昭南神社（昭）、建国忠霊廟（満）
再建		彩帆神社（南・彩帆香取神社として再建）、八幡神社（南・彩帆八幡神社として再建）、住吉神社（南・天仁央神社として再建）・ペリリュウ神社（南・旧跡地の近くに再建）、南洋神社（南・私邸内の社殿部分に再建）
復活		開山神社（台）

旧神社名の後の（ ）は、日本の支配下に入った地域の旧名（表１の「旧支配地名」）の頭文字である。

に遺構が残されている例である（以下，「放置」と表記）．2つめは，神社跡地が今日何らかの形で改変され，手を加えられて，その中に神社の遺構の一部が残っていたり，あるいは全く痕跡さえ見られないという例である（以下，「改変」と表記）．3つめは，戦前の海外神社が，戦後一旦廃絶し，その機能を喪失したにも拘わらず，1980年代以降に「再建」されたものである（以下，「再建」と表記）．4つめは，海外神社が，もともとあった，ある宗教施設を利用して創立された場合，日本の敗戦により，それが元の宗教施設に戻った例，いわば「復活」した例である（以下，「復活」と表記）．

表2はこの4つの区分に従って，該当する神社名を入れたものである．但し旧官国幣社のように多くの社殿と広大な境内をもっている場合，神社跡地といっても本殿と他の社殿，またそれらと境内の跡地が別々に利用されて，景観を変容させている場合がある．例えば朝鮮神宮（京城府南山，1919年創立，官幣大社）の場合，広大な境内は今日南山公園として利用されており，本殿部分は植物園（温室）として利用され，また他の社殿部分には安重根の記念館もある．また，昭南神社（昭南島，1943年創立）の場合，本殿部分はジャングルの中に埋没しているが，その他の社殿，境内部分はゴルフ場となっている．このような場合は1つの神社跡地が，異なった現況・景観の中にそれぞれ記入されているので，神社名の合計は79社を超えている．

さて，調査事例が少なく，また地域的にも偏りがあるわけであるが，これまで調査した79の神社跡地の内，一番多いのは跡地が何らかの形で改変され，手をくわえられて利用されている「改変」の事例である．先程述べた重複を避けるために，今仮に現況を本殿跡地部分に固定して，その現況の数を数えて見れば，「改変」された事例は53神社で全体の67％を占める．2番目に多いのは「放置」されている例で，20社で25％である．「再建」された例は5社，神社となる前のものに「復活」した例は1社だけである．

さて，これらをもう少し具体的に見ておこう．まず，数が少ない事例から見ていきたい．

1「復活」の例

「復活」した海外神社跡地とは，台湾の開山神社跡地の例である．台南州台南市にあった開山神社は（写真14），日本の台湾統治が始まった翌年，1896年に創立（翌年県社に列格）されたもので，台湾で最も早く創立された海外神社である．しかし，創立といっても，この神社は新しく建てられたものではなく，17世紀の半ばオランダ人支配から台湾を解放し，また明朝再興を掲げて清軍と戦い，

写真 14　台湾　旧台南市，旧開山王廟を改変して創立された開山神社
（松本暁美・謝森展『台湾懐旧』，1990年11月，創意力文化事業有限公司，246頁）

それ故に台湾の漢民族から崇拝を集めていた鄭成功を祀っていた小祠（開山王廟あるいは開台聖廟と呼ばれていた）を，開山神社と改称，改変したものである．祭神はそのまま鄭成功とされていたが，これは鄭成功の母親が日本人であったということであり，その意味で開山神社の創立は，日本の台湾支配を正当化する意味合いを持っていた[18]．

今日は，元に戻り，明延平郡王祠として鄭成功を祀る廟となっているが，日本の統治の開始による，従来の廟から開山神社への改変，さらには日本統治の終了による，今日の明延平郡王祠への改変の具体相は興味ある課題である．この点の具体的分析は後日を期したい．

2「再建」の例

次に，「再建」された神社について見ていこう．旧南洋群島に建てられた神社の中で，再建された神社が5つある．1つはテニアン島の天仁央（安）神社であり，2つはサイパン島の彩帆香取神社であり，3つめは同島の八幡神社（以上の3つは現北マリアナ諸島連邦），4つめはコロール島の南洋神社であり，5つめはペリリュウ島（以上の2つは，現パラオ共和国）に建てられたペリリュウ神社である[19]．

1つめの，天仁央神社はテニアン島にあった元住吉神社が1984年に天仁央（テニアン）神社として，同奉賛会により「再建」されたものである．

日本統治下にあっては，テニアン島には6つの神社があり，その中の一つとして，市街のソンソンに島の中心的神社として，島全域を氏子区域とする天仁安神社が建てられていた（1934年創立）．しかし，これは1944年のアメリカ軍の爆撃，占領によって壊滅的な打撃を受け消滅してしまった（跡地には，学校や教会が建てられている）．写真（15）は，その天仁安神社の鳥居とされているが，これについては確認していない．

また，住吉神社は1939年にソンソン第1農場を氏子区域とする神社として創立されたものであった（以下，サイパン，テニアン，ロタの各島で「農場」という言葉が出てくるが，これは南洋興発株式会社の砂糖キビ〈甘蔗〉栽培の農場である）．

この住吉神社跡地に1984年に奉賛会によって，天仁央神社が再建されたものである．写真（16）は入り口部分であるが，左側奥に「天仁央神社」と書かれた社号標や燈籠の上部も見えている．また，写真では見えないが，階段の途中には，手水鉢が置かれている．この階段や手水鉢，鳥居，燈籠は旧住吉神社の遺構・遺物である階段を上りきると，両側に「清流社」と「天仁央神社奉賛会」の奉納になる新しい狛犬が建てられている．さらに進むと社殿部分がある（写真17）．本殿は再建にあたって新しく据えられたものであり，社殿を囲む柵（玉垣）や本殿の基壇，狛犬は元の住吉神社時代のものである．

2つめの，彩帆香取神社は，南洋群島の神社の中で，最も早く建てられた彩帆神社（写真18，1914年サイパン島のガラパン町香取山に創立，氏子区域ガラパン町一円）が再建されたものである．1944年のアメリカ軍との戦闘で炎上，消失したが，それを1985年に彩帆（サイパン）香取神社として再建されたものである．

境内の「再建の記」には以下のように書かれている．「北マリアナ連邦の繁栄と平和，並びに日本国との悠久の親善友好を祈念しつつ…連邦政府の歴史事跡を保存尊重する考えと日本の香取神社連合

写真15　南洋群島　テニアン島，米軍の爆撃で壊された鳥居．1944年8月．神社名は不明．
（沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編『沖縄県史ビジュアル版9　近代②旧南洋群島と沖縄県人―テニアン―』，2002年2月，47頁）

写真16　南洋群島　テニアン島，旧住吉神社跡
テニアン（天仁央）神社として再建された．階段や鳥居は住吉神社時代のもの．

写真17　同前
玉垣，本殿基壇，狛犬は旧住吉神社時代のもの．基壇の上に石造の新しい本殿が置かれている．

写真 18　南洋群島　サイパン島に建てられた彩帆神社
（小菅輝雄『南洋群島写真帖』，1978 年 5 月，グアム新報社東京支局，70 頁）

写真 19　南洋群島　サイパン島，彩帆神社跡地に再建された彩帆香取神社
拝殿の奥に本殿へと続く彩帆神社時代の階段が見える．

写真 20　同前

写真 21　南洋群島　サイパン島，八幡神社跡に再建された彩帆八幡神社
鳥居の奥，巨大な岩に囲まれた奥に社殿がある．

写真 22　同前
旧八幡神社時代の鳥居が倒れたまま残されている．

会との合意に依り…神社祭典の斎場を整へ，以て香取大神の宏大なる神徳を仰ぎ太平洋の国々の平和と諸国民の幸福を祈念する次第である．香取神社連合会・マリアナ観光局」

サイパンの中心街，ガラパン地区の旧香取山を背景にした砂糖王公園の一角，砂糖王といわれた南洋興発株式会社社長の松江春次の巨大な銅像（1934年創造）とともにある．再建された彩帆香取神社の鳥居や燈籠，社殿（写真19，20）は全部新造されたもので，当時の面影を忍ばしてくれるのは，僅かに鳥居の手前に残されている，崩れた燈籠と社号標，そして拝殿から本殿に続く階段と本殿の基壇だけである．

なお，拝殿の左側に彩帆鎮霊社というものが建てられているが，その拝殿の天井には「彩帆鎮霊社御創建奉仕者名　清流社青年神職・南洋群島慰霊巡拝団（個人名略）昭和六拾年六月吉祥日」と書いた札が掲げられている．

3つめのサイパン島の彩帆八幡神社は，1924年にサイパン島の東村に建てられ，東村一円を氏子区域とする八幡神社が，1981年に埼玉県久伊豆神社の小林茂宮司らにより，彩帆八幡神社として再建されたものである．祭神はもと大抵比賣神と息長帯姫であったが，再建されてからはサイパン国魂大神，八幡大神，久伊豆大神の3神である．再建の経緯はサイパンを訪れた小林宮司の子息が，唯一神社の面影を残していた旧八幡神社を見て，再建を決意した事による．旧八幡神社が面影を留めていたのは，戦後境内地の所有者となった現地人のフランク・ゲレロ氏が大切に守りつづけてきたからであった．[20]

社殿は巨大な2枚の岩の間に挟まれた空間（参道）の奥に安置され，この岩の入り口に鳥居が立てられている（写真21）．この社殿と鳥居は再建の際，日本で作って運んだものである．この鳥居の手前に，前の八幡神社時代の手水鉢と鳥居が倒れたまま残されており（写真22），さらにその前には社号標，燈籠，参道の階段が草に埋もれて残っている．

4つめの南洋神社は1940年，（パラオ）コロール島アルミス高地に南洋群島の総鎮守として建てられた官幣大社である（写真23）．境内地は96,248坪，樺太神社の約5倍，台湾神宮，朝鮮神宮に匹敵する広さであった．敗戦後，1945年9月，米国側の了解のもとに「奉焼式」を行い，本殿などの社殿部分を日本側の手によって「奉焼」した．現在，この南洋神社跡地の中心部分は私有地となって個人の邸宅が建っている．この邸宅の前庭のような形で（写真24），旧本殿拝殿の基礎石組みの上に，鳥居や燈籠，狛犬や社殿が新しく設置されて（写真25）1997年に「再建」された．本殿右側に再建の趣旨を述べた石碑が立っているが，そこには，次のように書かれている．「（前略）日本人がその地に定住するには，先ず土地の国魂を祀り開拓の先輩を敬重し，敬神崇祖のまごころを尽くすことから始まった．その精神の集中するところが神社であった．しかしながら今次大東亜戦争の挫折によって南洋神社も一旦撤収のやむなきに至った．ここに，新たなる時代を迎えて日パ両国の有志により神社の歴史的由縁に基づきこれを再建し祖先と英霊の御加護を祈り南洋の発展と平和の基点とし以って世界文明の進運に寄与せんと願ふものである[21]　平成9年10月吉日」

また，本殿の左側には別の石碑（戦死者顕彰碑）が設置されているが，そこには次のような文が日本語と英語で刻まれている．「この南洋神社には，日本とパラオの祖先神と大東亜戦争の戦死者が刻まれている．ここに，パラオの戦死者の名を刻み，その勇気を讃える．　名越二荒之助」．

神社の遺構・遺物については実に多く残っている．

写真23　南洋群島　コロール島（パラオ）に建てられた官幣大社南洋神社の鳥瞰図
（官幣大社南洋神社奉賛会編『官幣大社南洋神社御鎮座祭記念写真帖』，1941年6月，1頁）

写真24　南洋群島　コロール島（パラオ）旧南洋神社跡に再建された南洋神社
写真23の左上，本殿・拝殿部分に神社が再建され，右上の広場の部分に個人の邸宅が建てられている．新設された石造りの社殿裏から邸宅を臨む．

写真25　同前
旧拝殿・本殿部分の階段状の基壇の上に，鳥居，燈籠，社殿が建てられている．

写真26　同前
現在も残る手水舎

社殿部分の基壇，参道の入り口の大燈籠（1対），神社境内入り口の大燈籠，太鼓橋，朽ちた木製の社号標，そして社殿に向かう階段．社殿面にあがる階段．そのたもとに大燈籠（1対），手水鉢，手水舎（写真26）などである．

5つめは，ペリリュウ島のペリリュー神社である．ペリリュウ島はコロール島の南方にある小さな島であるが，フイリッピン防衛（攻略）の為に，日米両軍が73日間にわたって死闘を繰りひろげた島であった．

この島にあった，ペリリュウ神社は創建年は不明であるが，ペリリュウ島一円を氏子区域とした神社であった．それが，1982年に清流社によってペリリュー神社として「再建」されたものである（写真27）．これまで見た4つの「再建」された神社は全て神社跡地に建てられていたが，ガイドの説明によると，この新ペリリュー神社は旧ペリリュウ神社の跡地に建てられたのではなく，旧神社跡地より少し上がった高台の上に新たに作られたものである．旧神社跡地は現在採石（ライム・ストーン）場になっている．

社殿の左側に，その旧神社跡地にあった本殿と鳥居が移設されている．その他の設備は全て新しく創られたものである．ペリリュー神社と書かれた，鳥居の額束は今日パラオの特産品となっている，「ストーリーボード」を模して作られている．また，本殿の左下には神社の由緒が次のように刻まれている．

「この神社は青年神職等の組織する清流社が昭和五十七年（1982）年五月建立したもので，先に大戦において祖国日本を護るために此の地で散華された，多くの陸海将兵と民間人すべての御霊を祀る鎮魂のところです．祭典は毎年行はれ祖国の安泰と世界の平和を祈念致します．平成十三年七月吉日　清流社」

また，前の神社跡地時代から建てられていたものが，米太平洋艦隊の指揮官ミニッツの次の言葉を日本文と英文で両面に刻んだ石碑も移設されている．

「諸国から訪れる旅人たちよ，この島を守る為に日本軍人がいかに勇敢な愛国心をもって戦いそして玉砕したかを伝えられよ」[22]

以上，5つの「再建」された神社を見てきたが，①いずれも，南洋群島に建てられた神社であること，②1880年以降に「再建」されていること，③主体になったのは日本の神社関係者であること，等がその特徴としてあげる事ができるであろう．とくに，③点目で目立つのは清流社という団体である．この団体は青年神職等によって組織された民族派の団体で，一般にはいわゆる「新右翼」に括られる団体である．この団体は，5つの「再建」神社の中でペリリュー神社の再建に中心的にかかわり，また，天仁安神社においても燈籠を奉納し，さらに，彩帆香取神社においても，その境内に鎮霊社を建てている．

3「放置」の例

次に，今日，「放置」されたままになっていて，草地や或いは荒地の中にその遺構を残し，またその痕跡を留めているもの，さらに雑木林や密林（ジャングル）の中に埋没してしまっている神社跡地の様子，景観を見ていこう．

まず「放置」されたままになっているものの中で，階段，鳥居，燈籠，社殿の基壇などがほとんど揃っていて，神社の全体像を思い浮かべる事の出来る神社跡地は，台湾では大港口祠，タガハン祠，

写真27　南洋群島　ペリリュウ島（パラオ）に再建されたペリリュー神社
旧ペリリュウ神社跡地を少し上った高台に新しく再建された．

写真28　台湾　旧花蓮港庁下，新社庄に建てられた大港口祠跡
階段，鳥居，燈籠などが放置されたままになっている．

樺太では泊居神社，南洋群島ではカラベラ神社，泉神社，仮称（南洋コーヒー）神社（以上，サイパン島），橘神社，NKK 神社，羅宗神社（以上，テニアン島），ガラスマオ神社（パラオ，バベルダオブ島）それに昭南島（シンガポール）の昭南神社などの跡地である．泊居神社についてはすでに見たので，もう少し他の例でいくつか紹介しておこう．

写真（28）は台湾旧花蓮港庁鳳林郡新社庄にあった大港口祠（1937 年創立）跡である．港を望む丘陵地にあり，道路に面してすぐに階段がある．階段を上ったところに鳥居が 1 基立っており（鳥居の上部，笠木の中央に角状の突起が付けられている），また写真では判りにくいが階段に沿って 2 列 4 基の燈籠がたっており，また階段を上り詰めたところ，鳥居の両側にも 1 対の燈籠がある．また，手水鉢らしきものもあった．

南洋群島には，「放置」された神社跡地が多い．まず，サイパン島のカラベラ神社は 1919 年，旧北村に立てられ，北村一円が氏子区域となっていた神社である．山裾の傾斜地を利用して創られたこの神社は，今日すっかりジャングルの中に埋もれている．道路から，牧場を横切り，ジャングルの中に分け入っていくと太鼓橋，手水鉢，鳥居台石，階段，その脇に点々と残る燈籠の基壇（5 対 10 基），それを上りきったところに社殿基壇が二つ（本殿と摂社か）斜めの線で少し離れて残っている（写真 29）．サイパン島の神社は彩帆神社が 6,427 坪と最大で，カラベラ神社を除く神社はいずれも 1 千坪台の境内地であるが，この神社は 6,000 坪と彩帆神社に匹敵する広さを持っていた．上にみた神社遺構・遺物の残存状況はそれを窺わせるに十分なものであった．

サイパン島の泉神社[23]もジャングルの中に埋もれてしまっている．そしてカラベラ神社ほどではないが，鳥居 1 基（写真 30），燈籠基壇 2 つ，石段 2 つ，本殿基壇 1 つが残っており，神社の在りし日を偲ぶことができる．

サイパンのこれら 2 つの神社跡地は，文字通り，「放置」されジャングルの中に埋もれてしまった例であるが，同じ南洋群島に建てられた神社の中でもテニアン島に建てられた神社跡地は「放置」といっても少し説明が必要になってくる．テニアン島の 3 つの神社跡地，橘神社，羅宗神社，NKK（南洋興発株式会社）神社の跡地のうち，後 2 社は厳密には「放置」と言い難いものである．というのは，この 2 つの神社跡地は旧参道から本殿跡まで，連邦政府の手（観光担当）の職員の手によって，月 2 回草刈が行われているとの事である．

私共が調査に訪れたのは，8 月の中旬であったが，この時は 6 月に襲った大きな台風の被害のために，手がまわらずしばらく草刈は出来なかったため，羅宗神社跡地の場合は，人の肩あたりまでの草に覆われていたが，それでもそう言われると新しく伸びた柔らかな草で（雨季で高温の季節であるので成長が早い），旧参道から本殿跡まで迷わず到達する事ができた．

さて，NKK 神社[24]はテニアン島アンガーの第 4 農場の関係者によって建てられたもので，鳥居 2 基（写真 31），燈籠 6 基（3 対），本殿基壇，本殿を囲む柵（玉垣）の一部が残り（写真 32），神社の面影をほぼ完璧に残していた．なお，二の鳥居の前には，英文と日本語の「案内板」が立てられており，人の訪れる事が前提にされている．

羅宗神社はテニアン島チューロに 1939 年に建てられたもので，直営農場を氏子区域にしていた（写真 33）．神社跡には，社号標（写真 34），燈籠 1 対（2 基，上部無し），大燈籠 1 対（2 基，同）（写真 35），階段，本殿基壇，玉垣の一部などが残されていた．

写真 29　南洋群島　サイパン島旧北村に建てられたカラベラ神社跡
完全にジャングル化した跡地に放置されたままの本殿基壇部分．これは雑草・雑木を切り払ったあとに撮った写真である．

写真 30　南洋群島　サイパン島旧泉村に建てられた泉神社跡
完全にじゃグル化した跡地に放置された鳥居．

写真31　南洋群島　テニアン島，南洋興発の第４農場の関係者によって建てられたNKK（南洋興発株式会社）神社跡地
今も残る，一の鳥居．社殿までの参道は連邦政府の職員の手で草が刈られている．

写真32　同前
本殿基壇，玉垣が一部崩れて残る．

写真33　南洋群島　テニアン島，南洋興発の直営農場の総鎮守として建てられた羅宗神社
サイパン，テニアン，ロタ島などには沖縄から多数のサトウキビ栽培者が移住してきた（沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編前掲書，18頁）．

写真34　南洋群島　テニアン島，旧直営農場の総鎮守として建てられた羅宗神社跡
社号標が放置されたまま残っている．

写真35　同前
放置されたままの大燈籠

写真36　南洋群島　テニアン島，旧第３農場の関係者によって建てられた橘神社跡
ジャングルに埋もれ放置されたままになっている倒壊した鳥居．

テニアン島のもう1つの神社，橘神社跡地は，また少し異なる．この神社は1939年にテニアン島カーヒーに建てられ，カーヒー並びに第3農場を氏子区域にしていたが，道路から参道に入るまでは，羅宗神社跡地と同じ状態であったが，その先，社殿にいたるまでは，完全にジャングルに覆われていて，まさに「放置されている状態である．燈籠2基（上部欠け），手水鉢，倒壊した鳥居（写真36），本殿の基壇，玉垣（一部欠け）などが残されていた．

最後に昭南神社を紹介しておこう．昭南島の昭南神社は1943年11月，シンガポールを占領した軍の手により，南方鎮守のシンボルとして創建されたもので（写真37），その建設にはイギリス・オーストラリアの約2万人の捕虜が使役された．マクリッチ貯水池の西の端，貯水池に注ぐ小川を伊勢の五十鈴川に見立て，そこに朱塗りの神橋（太鼓橋）をかけ（写真38），対岸のこんもりと繁ったジャングルを切り開いて本殿が創られた．3段の長い階段，3つの鳥居を持つ巨大な神社であったが，敗戦とともに軍の手によって爆破された[25]．

今日，神橋の木製橋脚が点々と顔を除かせている（写真39）．この他，ジャングルの中には階段や手水鉢，社殿跡地等が残っている．

4「改変」の例

最後に，人の手が加えられ，現在何らかの形で利用される事によって，景観を変容させている神社跡地について見ておこう．

［公園］

神社は平地の，街の中心部に創られる場合もあったが（北京神社，天津神社，建国忠霊廟，新城社等），多くは街の中心から少し外れた小高い丘陵，山裾に創られた．

これは，日本においても伝統的に見られる神社立地の一つであるが，海外神社においては，この点は意識して創られた．神社というものが街の鎮守として，また日本の支配のシンボルとして位置付けられたため，街を見下ろす，また街から仰ぎ見る事の出来る小高い，風光明媚な場所が求められた[26]．

また，神社の清浄感を保つためにも，大きな神社では境内地に隣接して公園が設けられた場合もあった．こうしたことから，今日，神社跡地がそのまま公園として整備されている例も多い．朝鮮神宮跡地の南山公園，樺太神社（写真40）跡地の勝利公園（写真41，42），龍頭山神社跡地の龍頭山公園，青島神社（写真43）跡地の文化活動広場などである（写真44）．また，街の中の平地に建てられた神社でも，吉林神社跡地が児童公園となっている例もある（写真45）．また，こうした広い境内や隣接して公園をもっていた官国幣社やそれに準ずる神社だけではなく，例えば台湾において社（祠）としてたてられた壽社（山裾に立地）跡地も中山公園として整備されているし（写真46），後で見る新城社（街の中心部に立地）の境内もその半分は新城公園として利用されている．南洋群島の日之出神社（テニアン島アンガー，氏子区域第4農場，1939年創立）跡地もメモリアル・パークとして整備されている（写真47）．

［宗教関連施設］

神社跡地が今日，宗教施設として利用されている場合も多い．まず，キリスト教会あるいは同教祠あるいは墓地として利用されている例を紹介しておこう．まず，台湾旧花蓮港庁研海庄に建てられた新城社の例である．新城社は1937年に鎮座した社であり，新城の街の中に建てられた．今日，先に

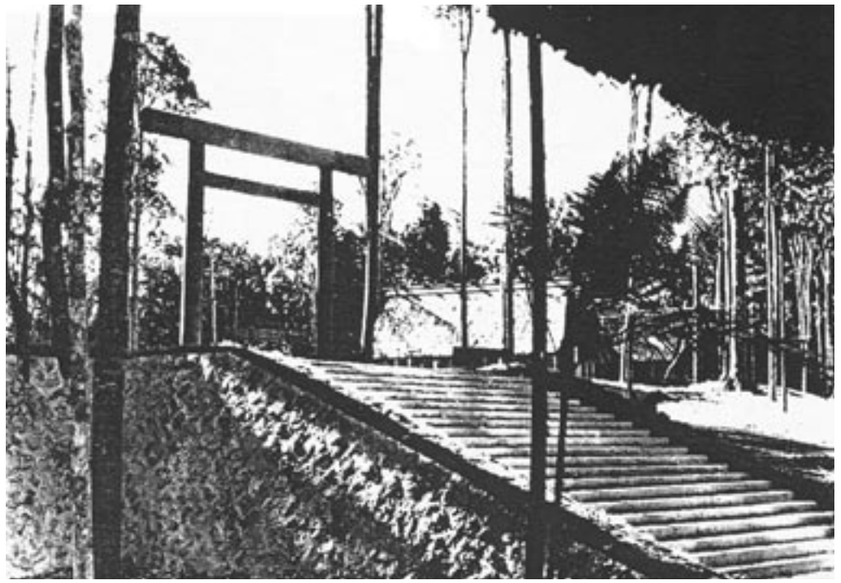


写真37　昭南島（シンガポール）に建てられた昭南神社
（シンガポール日本人学校小学部社会科部会「昭南神社」，シンガポール日本人会編『南十字星』4号，1992年，22頁）

写真38　同前
五十鈴川に見立てたマクリッチ貯水池に架かる神橋（太鼓橋）を渡たる神官と山下将軍ら軍首脳（シンガポール日本人会編『南十字星―シンガポール日本人社会の歩み―』，創刊十周年記念復刻版，1978年3月，12頁）

写真39　同前跡
神橋（太鼓橋）の支柱（木）が今も水面に点々と顔を覗かせている．正面奥が社殿側．

写真40　樺太　旧豊原に建てられた官幣大社樺太神社
（樺太庁『樺太庁施政30年史』（下），明治百年叢書，原書房，1974年1月，1536頁）

写真41　同前跡
参道はほぼそのままの形で残り，途中には燈籠の基壇も点々と残る．境内は勝利公園の一角となっている．

写真42　同前跡
勝利公園の一角に立つ銅像（対日戦勝利）

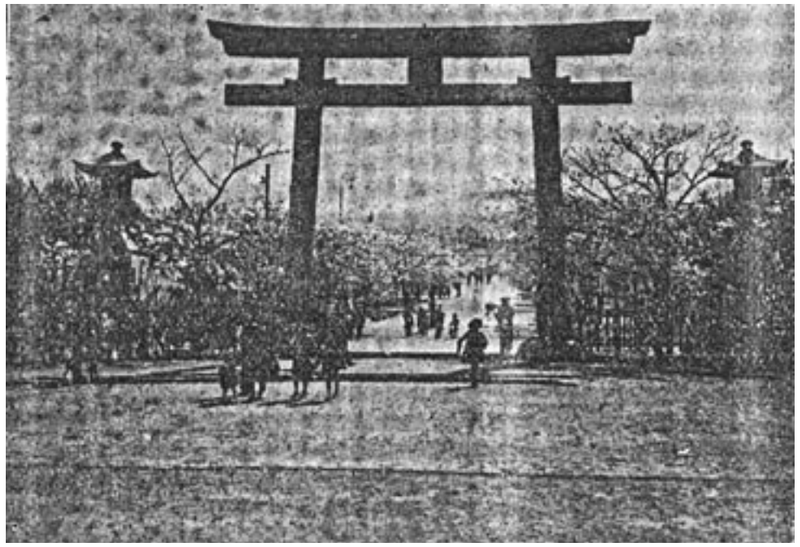


写真43　中華民国　旧青島に建てられた青島神社
（小島平八『山東案内』．1939年12月，日華社，279頁）

写真44　同前跡
参道はほぼそのまま残り，奥に大石段が見える．これを上がっていくと社殿跡に出る．現在はこの一帯が文化活動広場（公園）になっている．

写真45　満州　旧吉林市に建てられた吉林神社跡
現在は児童公園になっている．神社の遺構・遺物は全く残っていない．